

第7章『M&Aでゴールイン。笑顔と涙の成約』 ～新たな門出へのはじめの一步へ～

大阪府事業承継・引継ぎ支援センター
統括責任者 兼田 亜貴



M&Aはよくお見合い結婚、恋愛結婚に例えられます。初めて会う男女が恋に落ち、お互いの事を知りながら、一緒になるまでのプロセスと、譲渡企業と譲受企業が「この会社ならば」と惚れ込み、この相手でいいのかどうかと熟慮を重ねた結果、成約に至るM&Aとが、よく似ているからです。最終、ご成約のための調印をする場が、「成約式」で、まさに結婚式に例えるとぴったりきます。

大阪商工会議所内にて、事業承継・引継ぎ支援センターのお客様がこの成約式を度々開催されており、当センターが立ち会わせていただく事も多くなりました。華やかな場である一方、実は笑顔と涙、安堵と不安が交錯する場でもあります。この日を迎え、改めての決意と覚悟の最終決断が求められるからです。そんな成約式の心残る記憶を紐解いてみました。

▶成約式①「株式譲渡契約書」に震える手で印鑑を押印した瞬間、「ああ…」とため息が漏れた譲渡企業の社長がいました。目には涙が溢れています。緊張からの解放と会社を手放す寂しさが同時に襲ってきたのです。

▶成約式② 譲渡企業・譲受企業の両社長とも「昨日は一睡もできなかった」というケースもございました。でも、無事の契約締結後には、ほっとされた様子で、お二人とも意気揚々と実務の引継ぎや今後の展開について話されていました。

▶成約式③ 先代社長が、M&A成約までに急逝してしまった譲渡企業様、ピンチヒッターの後継者が「社長、素晴らしい相手が見つかりました。」と、朝に仏前に手を合わせてから成約式に来られたとの事。良き相手との巡り合いを望まれていた先代社長も「天国で安心してくれているはず」と後継者。それを受けて、譲受企業様も「先代社長と従業員の想いをしっかりと引継いでいきたい」と、改めて決意と覚悟を誓われていました。

成約式は、新たな門出に向けてのはじめの一步でもあります。今後も、たくさんの成約式に当センターも共に参加できるよう引き続き支援に励みたいと思います。

